

日本公衆衛生看護学会誌投稿規程

1. 投稿者の資格

投稿者は著者および共著者もすべて本学会員（賛助会員を除く）とする。但し、編集委員会から依頼された原稿についてはこの限りではない。

2. 著者資格および研究貢献者

1) 著者資格

「著者」(Author)とは、通常、投稿された研究において大きな知的貢献を果たした人物と考えられている。著者資格 (Authorship) は以下の4点に基づいているべきであるとともに、そのすべてを満たしていなければならない。なお、投稿原稿の採用決定後に、著者名の追加および削除は認められない。

- ① 研究の構想またはデザイン、あるいは、データ収集、データ分析または解釈において相応の貢献があった。
- ② 論文の作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した。
- ③ 出版原稿の最終承認を行った。
- ④ 研究のあらゆる部分において、その正確性または公正性に関する疑義が適切に調査され、解決されることを保証し、研究のあらゆる側面に対して説明責任を負うことに同意した。

資金の確保、データ収集、研究グループの総括的監督に携わっただけでは著者資格は認められない。著者はすべて著者資格を満たし、著者資格を満たす人物はすべてその名が列挙されていなければならない。

2) 研究貢献者

著者資格の基準を満たさない研究貢献者は、すべて「謝辞」の項に列挙する。研究貢献者としての貢献内容も明示する。たとえば、「データ収集の協力」「研究参加者の紹介」「研究の部分的な助言」「論文作成の批判的校閲」などのように貢献内容を付して記述するとよい。なお、投稿原稿の採用決定後に、研究貢献者の追加および削除は認められない。

3. 原稿の種類

1) 原稿の種類は、研究、活動報告、その他であり、それぞれの内容は以下のとおりである。

【研究】 独創的で、新しい知見が論理的に示されており、公衆衛生看護学、並びに公衆衛生看護活動の知識として意義が明らかであるもの。また、公衆衛生看護学、並びに公衆衛生看護活動に関わる課題や話題についての著述や提言、特定のテーマについて文献などを検討して考察したもの。

【活動報告】 公衆衛生看護活動を通して得られた、有用な知見の報告。活動の特徴及び、そのプロセスと結果を示すことで、他の地域や、組織・集団等における実践活動の参考となり得るもの。

【その他】 公衆衛生看護学、並びに公衆衛生看護活動に関する見解などで、編集委員会が適当と認めたもの。

2) 投稿論文の内容は、他の出版物（国の内外を問わず）にすでに発表あるいは投稿されていないものに限る。二重投稿は禁止する。

二重投稿とは、印刷物あるいは電子媒体を問わず、既に出版された、ないしは、他の学術誌に投稿中の論文と本質的に同一の内容の原稿をオリジナル論文として投稿する行為で

ある。（日本学術会議：科学研究における健全性の向上について，平成 27 年 3 月：
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf>）

4. 投稿原稿の構成

投稿原稿の構成は，原則として研究は表 1 のとおりとする．研究については，表 1 の構成によらない場合は投稿時にその理由を付す．活動報告については，表 2 の参考例をもとに，報告の趣旨に沿って適宜変更してよい．

表 1 研究の構成

項 目	準ずる項目	内 容
抄録		目的，方法，結果，考察にわけて，見出しをつけて記載する（構造化抄録）．和文抄録は 400 字以内，英文抄録は 250 words 以内とする．
キーワード		6 語以内
緒言	はじめに	研究の背景，目的
研究方法	方法と対象，材料など	研究，調査，実験，解析に関する手法の記述および資料・材料の集め方など
研究結果	研究成績	研究などの結果・成績
考察		結果の考察，評価
結語	おわりに	結論（省略も可）
謝辞など		謝辞，当該研究への助成や便宜供与など
文献		文献の記載は，別紙原稿執筆の要領を参照

表 2 活動報告の構成（例）

項 目	準ずる項目	内 容
抄録		目的，方法，活動内容，考察にわけて，見出しをつけて記載する（構造化抄録）．和文抄録は 400 字以内，英文抄録は 250 words 以内とする．英文抄録は省いてもよい．
キーワード		6 語以内
はじめに	まえがき	活動報告の目的と意義，活動の背景
方法		検討の方法，報告や検討に用いた資料・データ
活動内容	活動内容と結果	活動の目的，活動の特徴（対象・方法・工夫点等），活動の対象（対象とした地域・組織・集団等の概況），活動のプロセスと結果
考察		活動内容と結果の検討，活動を通じて得られた知見，課題，他の地域や組織・集団等の実践活動への適用・普及の可能性（先行研究を踏まえることが望ましい）
おわりに	あとがき	今後の活動への示唆（省略も可）
謝辞など		謝辞，活動報告並びに当該活動への助成や便宜供与など
文献		文献の記載は，別紙原稿執筆の要領を参照

5. 倫理的配慮

投稿原稿は、研究のすべての過程において倫理的な配慮がなされていることとする。

人が対象である研究や報告は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（以下URL参照）にそって倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されている必要がある。（<https://www.mhlw.go.jp/content/000769923.pdf>）

倫理審査委員会の承認を得て実施した研究は、承認した倫理審査委員会の名称、承認番号、承認年月日を本文中に記載する。なお、所属機関に倫理審査委員会が設置されていない場合は、本学会などの研究倫理審査を活用できる（日本公衆衛生看護学会HP 研究倫理審査申請 https://japhn.jp/ethics_inspect）。

さらに、研究や報告全体を通じて、施設や個人が特定されないよう、また知的財産権の保護に十分配慮して記述する。

6. 利益相反（Conflict of Interest : COI）

利益相反とは、外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、又は損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態をいう。（厚生労働科学研究における利益相反（Conflict of Interest : COI）の管理に関する指針，平成 20 年 3 月：

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000152586.pdf>）

投稿時から遡って過去 1 年以内での発表内容に係る企業・組織または団体との COI 状態を謝辞などの後に記載する。COI 状態のない場合は、「本研究に開示すべき COI 状態はない。」等と記載する。COI 状態がある場合は、編集委員会に連絡をする。

7. カバーレター

- 1) 原稿を他誌へ同時投稿していないこと、未発表であることを明記する。
- 2) 英文抄録（Abstract）のネイティブチェックを受けたことを明記する。

8. 投稿手続

- 1) 別紙，原稿執筆の要領を熟読の上，執筆にあたる。
- 2) 投稿原稿は本文，図，表，写真，抄録などをすべて正1部，副1部を送付する。
- 3) 正本表紙には，表題，希望する論文の種類，原稿枚数，図，表および写真などの数，著者名，所属機関名，投稿論文責任著者の氏名・連絡先（所属機関，所在地，電話，ファクシミリ，電子メールアドレス），キーワードを日本語で記載する（6語以内）。副本には著者名，所属，謝辞ほか投稿者を特定できるような事項を記載しない。ただし，副本でも研究倫理審査委員会の承認を得ている場合は，倫理審査委員会の名称，承認番号，承認年月日の明記を避けるため，○や×を用いた伏字にして記載すること。伏字を使用した際は，正本と行数が変わらないよう留意する。

異なる機関に属する者が共著である場合は，各所属機関に番号をつけて氏名欄の下に一括して示し，その番号を対応する著者の氏名の右肩に記す。正本には別に英文表紙をつけ，表題，著者名，所属機関名，Key wordを英語（日本語のキーワード数と同じ）で記載する。

- 4) 投稿時には学会ホームページに示されている投稿論文チェックリストをダウンロードし原稿の点検確認を行い，投稿原稿送付時に同封する。

- 5) 投稿時には、正本、副本、和文抄録、英文抄録、図表・写真などのデータをWordなどのファイルとして保存した電子媒体（CD-ROM、USBなど）と印刷した原稿を郵送する。
- 6) 掲載に際して、所定の著作権譲渡同意書を著者全員が自筆署名して、投稿時に送付する。
- 7) 投稿原稿は封筒の表に「日本公衆衛生看護学会誌原稿」と朱書し、以下に書留郵送する。

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目27番地16 大学通信教育ビル5階
中西印刷（株）内 日本公衆衛生看護学会誌編集事務担当
TEL：03-3816-0738 FAX：03-3816-0766
E-mail：japhn-ed@nacos.com

- 8) 改訂稿送付の際は電子メールによる受付を行う。

9. 原稿の受付および採否

- 1) 上記 8 の手続を経た原稿の到着日を受付日とする（受付日と到着順に付す受付番号とを、投稿者に通知する）。
- 2) 原稿の採否は査読を経て編集委員会が決定する。
- 3) 編集委員会の判定により、原稿の修正および原稿の種類の変更を著者に求めることがある。
- 4) 投稿された論文は理由の如何を問わず返却しない。
- 5) 修正を求められた原稿はできるだけ速やかに再投稿する。返送から2か月以上経過した場合は投稿取り下げとみなし、新投稿として扱う。

10. 著者校正

査読を経て、編集委員会で受理された投稿原稿については著者校正を 1 回行う。但し、校正の際の加筆は原則として認めない。

11. 著作権

著作権は本学会に帰属する。掲載後1年間は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。なお、学会の方針に基づき、データベースなどとして再利用することがあるので、同意の上、投稿する。

12. 著者が負担すべき費用

- 1) 掲載料 原則として無料とする。
- 2) 別刷料 別刷はすべて実費を著者負担とする。別刷価格表は別途示す。
- 3) その他図表など、印刷上、特別な費用を必要とした場合は著者負担とする。

附 則

この規程は、平成 25 年 1 月 13 日から施行する。
この規程の改正は、平成 25 年 11 月 24 日から施行する。
この規程の改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行する。
この規程の改正は、平成 27 年 4 月 8 日から施行する。

この規程の改正は、平成 27 年 11 月 29 日から施行する。
この規程の改正は、平成 28 年 9 月 25 日から施行する。
この規程の改正は、平成 29 年 6 月 10 日から施行する。
この規程の改正は、平成 30 年 1 月 26 日から施行する。
この規程の改正は、令和 2 年 9 月 13 日から施行する。
この規程の改正は、令和 3 年 2 月 20 日から施行する。
この規程の改正は、令和 3 年 5 月 15 日から施行する。
この規程の改正は、令和 3 年 9 月 28 日から施行する。

別紙

原稿執筆の要領

平成29年6月10日作成

平成29年7月15日改正

平成30年4月6日改正

令和3年3月21日改正

原稿の執筆にあたっては、「投稿規程」および「投稿論文チェックリスト」とともに本執筆要領を参照する。正本と副本は同じ体裁とするが、副本には著者名、所属、謝辞ほか投稿者を特定できるような事項を記載しない。また、投稿前には文章を推敲し、誤字や文献引用の記入ミスがないように努める。

I 論文の体裁

1. 原稿は上記表 1 または表 2 の順に記述し、論理的に記述され明快な文章で記載する。
2. 投稿原稿の 1 編は本文、文献、図表、写真を含め、研究 16 枚以内 (16,000 字以内)、活動報告 16 枚以内 (16,000 字以内) とする。これを超えるものについては受領しない、もしくは短縮を求める。図表、写真は A4 判 1 頁 1,000 字換算とする。
3. 250 words 以内の英文抄録並びに 400 字以内の和文抄録をつける。「活動報告」は英文抄録を省いてもよい。和文抄録と英文抄録の構成は、目的 (Objective) ・方法 (Methods) ・結果 (Results) ・考察 (Discussion) にわけて、見出しをつけて記載する。英文抄録と和文抄録の内容が確認し、英文抄録はネイティブチェックを受ける。
4. 原稿の終わりに謝辞などの項を設けることができる。
5. 投稿時から遡って過去 1 年以内での発表内容に関する企業・組織または団体との COI 状態を謝辞などの後に記載する。COI 状態のない場合は、「本研究に開示すべき COI 状態はない。」等と記載する。COI 状態がある場合は、編集委員会に連絡をする。
6. 原稿は原則として、パーソナルコンピューターなどのソフトウェアで作成する。
7. 原稿は A4 判横書きで、1 行の文字数を 25 字、1 ページの行数を 40 行 (1,000 字) とし、文字数はスペースを含めた文字数とする。原稿の余白は、左右 35mm、上下 20mm とし、適切な行間をあける。和文の句読点は全角の「、」と「。」を用い、英文の句読点は半角の「,」と「.」を用いる。

II 表記

1. 文の見出しは、以下に示す階層で構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。
 - ・第 1 層 I. II. III. 中央揃え
 - ・第 2 層 1. 2. 3. 左端揃え
 - ・第 3 層 1) 2) 3) 左端揃え
 - ・第 4 層 (1) (2) (3) 左端揃え
2. 数字や記号 (% など)、アルファベットは、原則として半角とし、括弧は全角とする。統計記号として用いる文字は、イタリック体とする (N , M , SD , $P < 0.05$, t -test など)。但し、ギリシャ文字 (α , β , χ^2) はイタリック体を使用しない。有意水準と図表におけるアスタリスク (*) について、 P は大文字・イタリック体とし、

P と < の間および < と数値の間に半角スペースを入れる。「*」は他の記号で代替しないが、2種類の差異が記載される場合は、他の記号を用いても良い。

3. 外国語はカタカナで記載し、外国人の名前や日本語訳が定着していない学術用語などは、原則として活字体の原綴で書く。
4. 年の表記は、原則西暦を用いる。元号表記は、行政資料の名称など、必要な場合のみとする。
5. 図、表および写真は、図1、表1、写真1など通し番号をつけ、その後にタイトル名を簡潔に記載する。図、表および写真は、1点につきA4判1枚ずつ配置し、本文の末尾に一括し、本文原稿右欄外にそれぞれの挿入希望位置を朱書きする。

【表の記載方法】

- ・表の罫線は必要な横罫線にとどめ、縦罫線は使用しない。縦罫線のかわりに十分な空白をおく。
- ・表には N を入れ母集団がわかるようにし、表中の語は簡潔に記載し、単位も明瞭に示す。表注には一般注、特定注、確率注の3種類があり、表の下に表示する。一般注は表全体に関わる情報、特定注は特定の列、行またはセルに関する注釈、確率注はアスタリスクや他の記号が表中で P 値および統計的仮説検定の結果を示すためにどのように使用されているのかを示す。表注は、一般注、特定注、確率注の順序で並べる。記載例を以下に示す。

表1 他者とのかかわりと性別との関連

		(N=220)				
他者とのかかわり		男性 (n=89)		女性 (n=131)	P	
		n	(%)	n		(%)
近所づきあい	あり	49	(55.1)	73	(55.7)	0.123
	なし	40	(44.9)	58	(44.3)	
趣味の集まりへの参加	あり	28	(31.5)	37	(28.2)	0.582
	なし	61	(68.5)	94	(71.8)	
町内会活動への参加	あり	38	(42.7)	40	(30.5)	0.054
	なし	51	(57.3)	91	(69.5)	
老人クラブへの参加	あり	51	(57.3)	44	(33.6)	<0.001
	なし	38	(42.7)	87	(66.4)	
職場のOB会への参加	あり	6	(6.7)	5	(3.8)	0.347 ^a
	なし	83	(93.3)	126	(96.1)	

注) 検定方法 χ^2 検定

^a: Fisher's exact test

表2 対象者のQOL、BMI、ADLの相関

(N=353)						
尺度	1	2	3	4	M	SD
1. QOL ^a	-	0.15 *	0.64 **	0.53 **	87.52	10.26
2. BMI	0.15 *	-	0.08	0.05	23.24	8.52
3. ADL ^b	0.64 **	0.08	-	0.84 ***	94.83	6.45

注) Spearmanの順位相関係数

^a n=348, ^b n=350

* $P < 0.05$, ** $P < 0.01$, *** $P < 0.001$

III 文献

1. 文献の記載方法は以下に従う。

1) 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。著者が複数の場合には「～ら」または「～et al.」と筆頭著者の姓を記載する。

例) 「・・・重要性が示唆され(湯沢, 1997), ・・・」

「・・・に関する文献(上田ら, 2010)・・・」

「・・・古川(2001)の定義する・・・」

「・・・Davis et al. (2014)の研究では, ・・・」

2) 文献は著者名のアルファベット順に列記する。但し、共著者は3名まで表記し、3人の著者名+『、他』とする(以下の例を参照)。英文の文献で著者が4人以上の場合は、3人の著者名+『、et al.』とする。

3) 本文中に複数の文献を引用した場合は、引用文献リストと同じ順序でアルファベット順に並べる。異なる著者による複数の著作を同じカッコ内で引用する場合は、カッコ内に第一著者の姓のアルファベット順で文献を並べ、セミコロンで文献を区切る。同じ著者による複数の文献は発行年の順に配置する。印刷中の文献の引用は最後に置く。

例) ……保健師の専門能力(岡本ら, 2007; 佐伯ら, 2004; 塩見ら, 2016)が示されている。

……に関する研究(山田, 2011, 2013, in press)では, ……

4) 同一著者による、同じ年に発行された異なる文献を引用した場合は、発行年のあとにアルファベットを記し、これらの文献を区別する。本文末の文献リストにおいても、同様の扱いとする。共著の場合は第2著者のアルファベット順、第2著者が同じ場合は第3著者のアルファベット順で並べる。著者が同じ場合はタイトルでアルファベット順に並べる。

例)

・蔭山ら(2015a)は……の重要性を指摘している。また, ……について, ……が報告されている(蔭山ら, 2015b)。

5) 同一書籍において引用箇所の著者が異なる場合は、これらの文献を区別して記載する。本文末の文献リストにおいても、同様の扱いとする。

例)

・質的研究には……の特徴があり(グレック, 2016), 特にグラウンデッド・セオリアプローチは…に適し, …のような方法と手順を用いる(萱間, 2016)。

6) 同一著者による同一書籍において異なる箇所を引用した場合は、これらの文献を区別し、本文中に著者名、発行年次、最初のページ数を括弧表示する。本文末の文献リストは、著者名、書名、引用した複数箇所のページ数、出版社名、発行地を記載する。

例)

・エスノグラフィーとは…であり(麻原, 2016, p99), その主な特徴は…である(麻原, 2016, p103)。

7) 投稿論文の査読は、著者名などを匿名にて行うため、本人の著であっても「筆者」「拙著」などとせず、筆者名による表記とする。

【雑誌掲載論文】

・著者名(発行年次): 論文の表題、掲載雑誌名、号もしくは巻(号)、最初のページ数-最後のページ数。

例)

瀨瀬朋弥, 後閑容子, 石原多佳子, 他(2013): 妊娠判明後のパートナーの喫煙行動

の変化と関連要因, 日本公衆衛生雑誌, 60 (4) , 212-221.

doi.org/10.11236/jph.60.4_212

蔭山正子, 大島巖, 中村由嘉子, 他 (2015a) : 精神障がい者家族ピア教育プログラム
の実施プロトコル遵守に関する尺度開発 フィデリティ尺度, 日本公衆衛生雑誌,
62 (4) , 198-208. doi.org/10.11236/jph.62.4_198

蔭山正子, 横山恵子, 中村由嘉子 (2015b) : 家族ピア教育プログラムを精神障がい者
家族が継続実施することで得る利益 プログラム事後調査, 日本地域看護学会誌,
18 (1) , 28-37. doi.org/10.20746/jachn.18.1_28

Wilson A. H., Blake B. J., Taylor G. A., et al. (2013): Cinemeducation: teaching
family assessment skills using full-length movies, *Public Health Nursing*, 30(3),
239-245. doi.org/10.1111/phn.12025

【単行本】

- ・著者名 (発行年次) : 書名 (版数) , ページ数, 出版社名, 発行地.
- ・著者名 (発行年次) : 論文の表題, 編者名, 書名 (版数) , ページ数, 出版社名, 発行地.

例)

井伊久美子, 松本珠実, 堀井とよみ, 他編 (2013) : 新版保健師業務要覧 (第3版) ,
4-5, 日本看護協会出版会, 東京.

Wilson L. L. (2010): *The world as community: globalization and health*, In Anderson
E. T., McFarlane J (eds.), *Community as partner: theory and practice in nursing*
(6thed.), 2-15, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia.

グレッグ美鈴 (2016) : 質的研究とは, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著,
よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざして, 21-
23, 医歯薬出版, 東京.

萱間真美 (2016) : グラウンデッド・セオリー, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美
江編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざ
して, 88-94, 医歯薬出版, 東京.

麻原きよみ (2016) : エスノグラフィー, グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編
著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版 看護のエキスパートをめざし
て, 99-101, 103-105, 医歯薬出版, 東京.

【翻訳書】

- ・原著者名 (原書の発行年次) / 訳者名 (翻訳書の発行年次) : 翻訳書の書名 (版
数) , ページ数, 出版社名, 発行地.

例)

Glanz K., Lewis F. M., Rimer B. K. (2002) / 曾根智史, 渡部基, 湯浅資之, 他訳
(2006) : 健康行動と健康教育: 理論, 研究, 実践, 217-236, 医学書院, 東京.

8) オンライン版でDOIのある場合は, DOIを記載することが望ましい. なお, オンライ
ン版でDOIのない場合は, アドレス (URL) を記載する.

- ・著者名 (発行年次) : 論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻 (号) , 最初のページ数
-最後のページ数. doi : DOI番号

例)

Tanihara S. (2014): The proportion of uncoded diagnoses in computerized health
insurance claims in Japan in May 2010 according to ICD-10 disease categories,

- 9) インターネットのサイトなど、逐次的な更新が前提となっている資料を引用する場合は、サイト名とアドレスを明確に記載するとともに、検索した年月日も付記する。

・著者名（発行年）：表題，アドレス（検索日：年月日）

例)

厚生労働省（2013）：平成25年度保健師活動領域調査（領域調査）の結果について，
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/ryouikichousa_h25.html
ml（検索日：2014年12月1日）

IV 原稿提出時の留意点

1. 投稿論文はWordなどで作成し，次の順で並べ以下の3つのフォルダにまとめ，電子媒体に保存する．正本フォルダのなかには，1) 正本表紙，2) 本文・文献，3) ~5) 表，図，写真，の各ファイルを入れる．副本フォルダのなかには，1) 副本表紙，2) 本文・文献，3) ~5) 表，図，写真，の各ファイルを入れる．抄録フォルダのなかには，6) 和文抄録，7) 英文抄録，の各ファイルを入れる．

- | |
|---|
| <p>1) 表紙：英文表紙も作成し，本文とは別のファイルに保存する（ファイル名を「正本表紙」「副本表紙」とする）</p> <p>2) 本文・文献：通し行番号を第1ページからつける</p> <p>3) 表（Table）：1ページまたは1シートに1点とする</p> <p>4) 図（Figure）：1ページまたは1シートに1点とする</p> <p>5) 写真（Photo）：1ページに1点とする</p> <p>6) 和文抄録：本文・文献とは別のファイルにし，ファイル名を「和文抄録」とする</p> <p>7) 英文抄録：本文・文献とは別のファイルにし，ファイル名を「英文抄録」とする</p> |
|---|

2. 原稿は，本文・文献のページに通しの行番号（連続番号としてページ毎にふり直しをしない）を付けて印字する．
3. 投稿論文チェックリストをもとに，投稿する前に原稿を点検・確認する．投稿論文チェックリストは，原稿に添付して提出する．